

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
菅野 摂子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会教育調査実習	MJGa-120701-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生が行ったのは、今回の調査全般にわたるリサーチクエスションの検討、アンケートの作成および送付、インタビュー調査で質問する内容の検討、インタビューの実査、アンケート調査の集計およびインタビュー調査の逐語録の作成、各自の研究テーマに沿った分析、報告書原稿の作成、報告書の送付である。調査対象機関および調査対象者へのコンタクトおよび依頼状作成、礼状の作成以外の作業はすべて学生たちが担当した。分析は各自の関心から4つのグループを構成し、分析で行き詰ったグループもあったが、先行研究や関連領域の知見を参照することでどのグループも個性的な研究結果が出せた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

保育の場の小児医療 - 港区保育園における看護師調査から - / 医療社会学

2. 調査の内容／概要：

医療の「専門性」を持ちながら保育という生活の場で活動する保育園保健師に業務内容やそれに伴う困難、さらには保護者や保育、あるいは小児医療の問題点についてたずねた。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

港区にある認可保育園31園のうち承諾を得られた10園の看護師である。内訳は公立保育園が4園、私立保育園が5園、暫定保育室が1園である。担当教員は一昨年度に港区内の公立保育園を利用する保護者の小児医療の利用と要望について、昨年度には港区内の小児科医師に小児科医療の提供とその問題点や課題について調査を行った。それを受けて、同じ港区内にある保育園に限定し保護者と医師との境界に位置する保育園看護師を対象とした。

4. 主な調査項目：

リサーチクエスションとして「保育園看護師の専門性」を中心におき「医療職としての役割」「保護者との関わり」「医療職ネットワーク」を加えた4つの問を設定した。具体的には看護職としての経験年数および前の職場と現在の業務、保育園看護職として働く理由、専門性の活用、保護者からの相談内容、対応に困る点、情報収集や相談相手、改善点および課題などである。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

保育園看護師は毎日の健康観察、病児やけがをした子どもの対応、保護者への連絡、保健だよりの発行や身体測定、環境整備など業務が幅広く非常に多忙なため、あらかじめアンケートに答えてもらい、それを回収する際に足りないところや、アンケートで深くは質問しなかった園長先生をはじめとする保育士との関係などについてたずねた。全員がICレコーダーの録音を許可して下さったため、アンケート結果やフィールドノートのほか逐語録を分析対象とした。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期は8～9月、調査地は港区、調査員は15名である。保育園看護師のインタビューが終了した後、「医療職ネットワーク」を担当するグループが保育園と小児医療との関係について知るために小児科医へのインタビューを希望したので、グループの学生4名と教員が港区医師会小児科医会の委員長にインタビューを行った。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

対象者によってインタビューの時間や内容の濃さが異なっていたが、アンケート調査も併用していたため、こちらが最低限押さえておきたい事項について収集できたと考える。また、学生はインタビューを終了した際にほとんどリアルタイムにインタビューの様子や答えにくいと指摘された設問をマーキングリストで報告したため、回を重ねるごとに質問の仕方が改善されるとともにデータの質も向上したと思われる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

M-GTAのワークシートを用いて作業を進めた。GTAのセオリーを十分に生かした分析ばかりはなかったが、質的データの深さや複雑さに接近し、質的な分析はできたと考える。また、アンケート調査においては統計的手法で解釈できる数量ではなかったため質的な分析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

先行研究が示したとおり、保育園保健職の抱える困難として、ひとり職なので相談相手がいないことが挙げられていた。園医や保育士との連携が不十分だと訴える声や子どもとの関わりがもっとほしいという意見もあった。保護者との関係においては、やはり病時の登園および早退の判断で問題が起こりやすく、それには安易に登園許可を出す医師の存在が指摘された。しかしながら、子どもが病気の際に職場との調整がうまくいかない保護者に対して理解を示す看護師も複数あり、子どもの健康を第一に考えることが保護者支援にもつながることが示唆された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.29